



## ～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

## 地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介（第45回）

## ～在宅から、地域包括ケア病棟“彩り”を経て、老健やましろへ～

患者さんは、息子様と二人暮らしの90歳代女性です。自転車での転倒をきっかけにADLが低下し、自力でトイレに行くことが困難となり日常生活に支障をきたすようになったことから介護保険の申請をされました。そして、ご家族、ケアマネジャーより、介護サービスが導入できるまでの間、“彩り”で受け入れして欲しいと依頼を頂戴しました。

自転車での転倒をきっかけにADLが低下したとのことでしたが、ADL低下の精査がされていなかったため、入院前に当院整形外科を受診して頂きました。受診の結果、特に急性期の治療が必要な病状ではなかったため、翌日から地域包括ケア病棟“彩り”に入院して頂きました。

事前のご家族やケアマネジャーからの情報では、数年前から認知機能の低下があるとの情報があったため、入院中に担当医による認知症の鑑別診断を実施しました。また、入院中に更なる認知機能低下やせん妄症状が出ないように、昼食前にデイルームで実施している集団体操や、セラピストと病棟看護師による生活リハビリを実施しました。傾聴ボランティアにも関わって頂きました。ソーシャルワーカーは頻繁に訪室し、ご本人に安心して過ごして頂けるよう積極的に声かけを行いました。

患者さんは現在も“彩り”入院中ですが、穏やかに過ごして頂いています。当初は介護サービスを導入するまでの入院の予定でしたが、ご家族の介護力等の問題もあり、現在、老健やましろ入所に向けて調整しています。お困り事がありましたら、お気軽にご相談ください。

(地域医療連携室 ソーシャルワーカー 松田 辰基)

## 老健やましろより

## ～老健見学会を実施しています～



10月より、月に1回、京都山城総合医療センターの職員が老健やましろをもっと身近に感じていただけるよう、「老健やましろ見学会」を実施しています。

現在、老健の新規入所者様の60%以上が京都山城総合医療センターからの入所です。病院から老健に入所される場合、治療中心である病院と生活の場である老健では、1日の過ごし方が大きく変化します。病院では治療中心の入院生活ですが、老健では毎朝服に着替えていただき、フロアに出て食事をし、リハビリやレクリエーション等をし

(裏面へ続く)

て過ごされるため、居室で横になって過ごす時間は入院中に比べると非常に少なくなります。その生活環境の変化で、入所当初は戸惑われる利用者様もいらっしゃいます。

お互いのスタッフがお互いの病院・施設を知り、それぞれの施設での生活環境を少しでも近いものにする事で病院から老健へのスムーズな入所を促進でき、利用者様の負担も軽減できるのではないのでしょうか。

見学に来られた看護師さんも、病院での入院中に関わった患者様を見つけ、一人ひとりに声をかけ入所者様も「病院でお世話になった看護師さんやなあ。」と笑顔で会話されており、老健で元気に頑張っている様子を見ていただけたことは非常に良かったと思います。

これからも毎月、見学会を実施していく予定です。病院の看護師さんに限定せず、他の職種の方や地域の皆様もご希望があればお気軽にお問い合わせください。

(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)

## 地域医療連携室より

### ～ 第24回 相楽・認知症を学ぶ会 ～



11月30日(土)、「第24回 相楽・認知症を学ぶ会」が相楽会館で開催され、参加させて頂きました。今回は、「もしバナゲーム」をグループに分かれて体験し、意見交換するという内容で、約60名の専門職が参加しました。

「もしバナゲーム」とは、『それぞれが人生の最期にどうありたいか』というテーマで、「痛みがない」「家族の負担にならない」「信頼できる主治医がいる」「祈る」など、終末期にどうありたいかについて書かれている計35枚のカードから、自分の価値観に近いカードを最終的に2枚選び、選んだ理由を発表するというものです。

「もしバナゲーム」の体験に先立ち、伊左治友子先生に「もしバナゲーム」を紹介された川崎あきさん(かがやか整体院)からゲームの主旨説明がありました。川崎さんは8年前、ご自身のお母様をがんで亡くされたとのことですが、残された家族が困らないようにと生前、お母様が終活をしておられたことについて言葉を詰まらせながら触れられていて、お母様を亡くされたご経験が現在の終活協議会認定講師としての活動の動機となっておられるのだらうと思いました。

私は初めて「もしバナゲーム」を体験しました。自身の価値観を知ることができたことや他の職種の方々の価値観を知ることができたことはもちろん興味深かったのですが、人生の最期という暗くなりがちなテーマについて、専門職同士で気さくに意見交換できたことが、今後のこの地域のアドバンス・ケア・プランニングの普及に繋がっていくのではないかと思います。そして、相楽版のもしバナゲームがあれば、一層、この地域のアドバンス・ケア・プランニングの普及を後押しできるのではないかと思います。伊左治先生、よろしくお祈りします。

(地域医療連携室 室長 南出 弦)